

わたしたちのくらしと 地域経済を支えるインフラ

本県では「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」を計画的に進めることで、ストック効果の高い社会資本を整備し、安心と希望を育む『みやざき新時代』の実現を目指します！

この事例集は、このような本県の取組を紹介します。



令和5年3月25日 東九州自動車道 清武南IC～日南北郷IC 開通！



令和6年1月
宮崎県 県土整備部



目次

【高速道路】

- P 1 大規模災害発生時に **支援路・代替路**として機能！
- P 2 高速道路の整備が **地域の活性化**につながる！

【道路】

- P 3 輸送効率化により **民間投資を誘発**！
- P 4 災害に強い道路整備により **中山間地域が活性化**！
- P 5 橋梁の耐震性能強化で**大規模地震発生時における人流・物流の確保**！

【河川・砂防】

- P 6 「**流域治水**」の取組による**治水安全度の向上**！
- P 7 **かわまちづくり**で **観光振興を実現**！ ～神代川～
- P 8 ハード・ソフト一体となった土砂災害対策により **地域防災力が向上**！

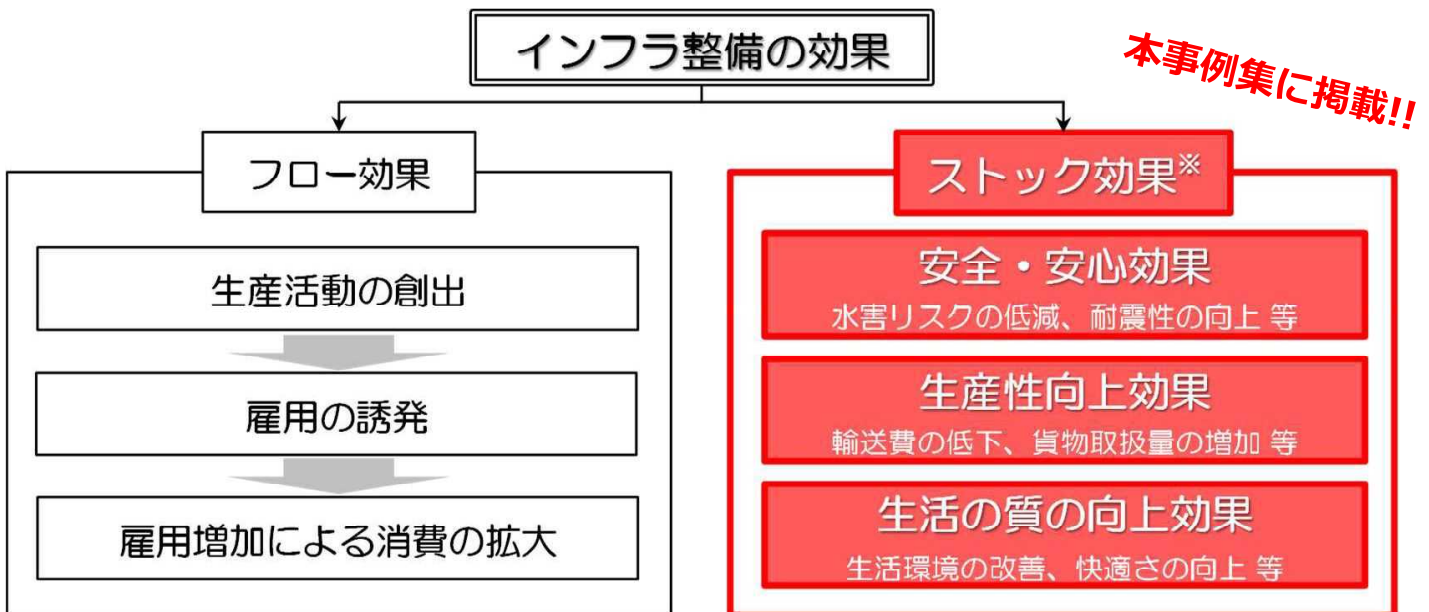
【港湾】

- P 9 港の整備による **基幹産業の生産性向上**と **競争力強化**！
- P10 陸路と海路の整備による **物流機能の拡大・強化**！
- P11 港の整備による **県南地域の産業活性化**と 災害発生時における **受入体制の確保**！

【都市整備】

- P12 国スポ・障スポ2027開催に向けた **公園整備で防災力向上を推進**！
- P13 地域住民との協働による **歴史を活かしたまちづくり**！

ストック効果とは？



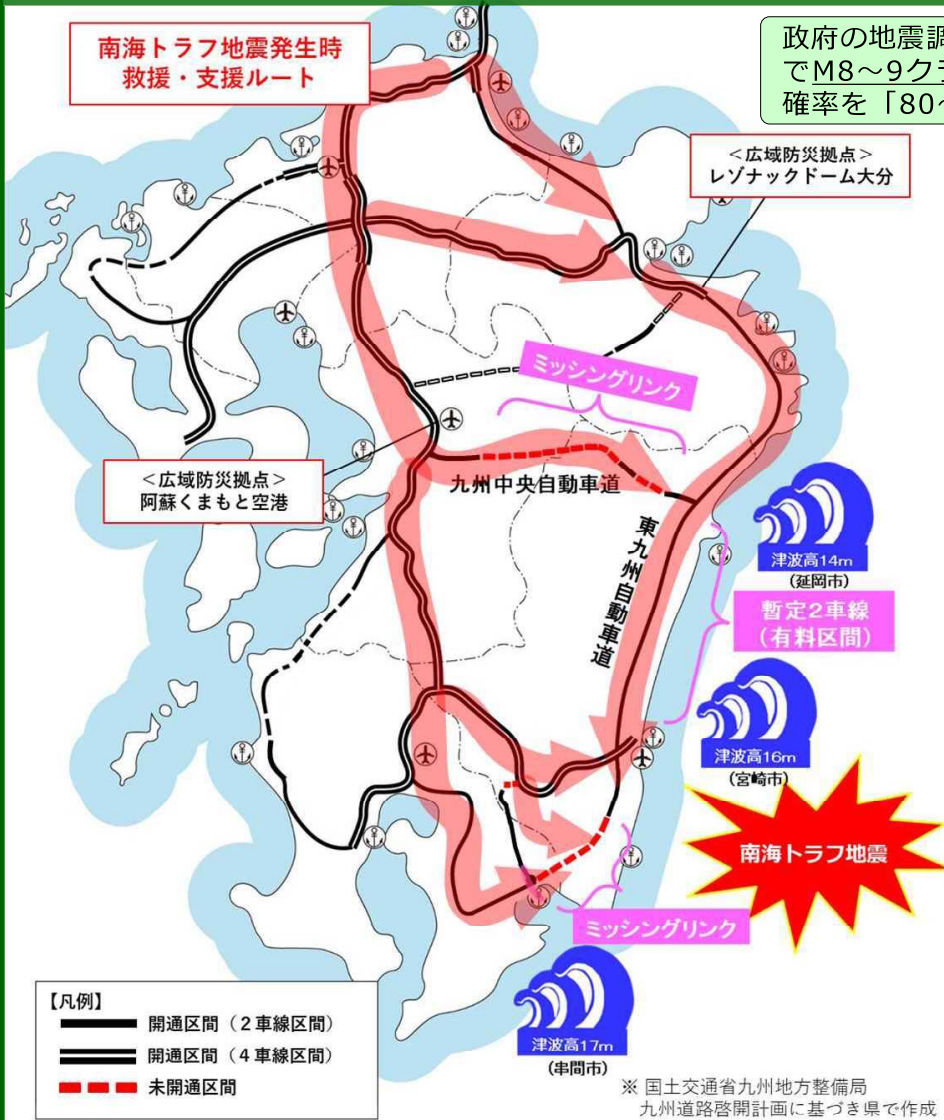
※整備されたインフラが機能することによって、整備直後から継続的に中長期にわたり得られる効果

大規模災害発生時に 支援路・代替路として機能！



求められるミッシングリンク解消と4車線化

【東九州道・九州中央道】



政府の地震調査委員会は、令和4年1月、南海トラフでM8～9クラスの地震が今後40年以内に発生する確率を「80～90%」から「90%程度」に引き上げ

ミッシングリンク解消

南海トラフ地震発生時の支援ルート確保

南海トラフ地震発生時 東九州地域沿岸部は 大津波により地域が孤立

暫定2車線区間の4車線化

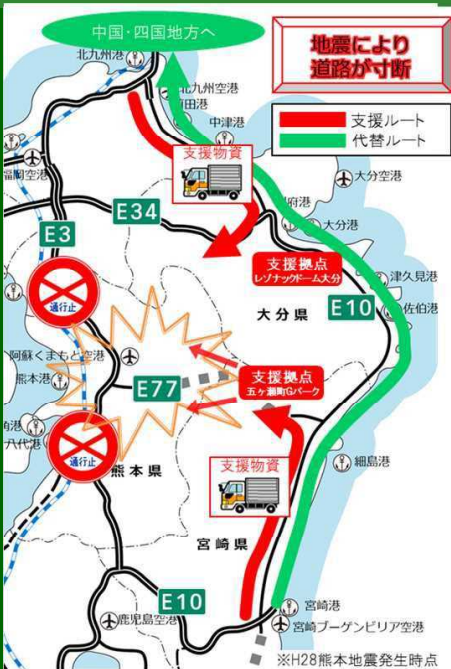
高速道路が被災した際、早期の交通機能回復

熊本地震の際、九州道は4車線のため、上り線を利用し 早期に交通機能を確保

災害に強い 道路ネットワーク

安全・安心の確保

熊本地震発生後、東九州自動車道が被災地の復興 及び九州全体の経済を支える役割を果たす！



被災地への支援ルートとして機能

・支援拠点へボランティア・支援物資を輸送

支援拠点：レゾナックドーム大分(大分県)



被災地(阿蘇市・山都町等)

支援拠点：五ヶ瀬町Gパーク(宮崎県)



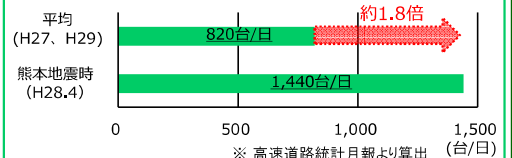
物流・人流の代替ルートとして機能

・通行止めとなった九州自動車道の代替路として機能



・東九州自動車道を利用して、被災地へ物資を輸送

【中型車以上交通量(門川IC～清武南IC)】



東九州自動車道の開通により、国道220号との新たな観光周遊ルートが創出！！



行きは高速道路でスイスイ走行！
帰りは日南海岸沿いをゆっくり走行！！

宮崎河川国道事務所 HP資料を宮崎県で一部加筆

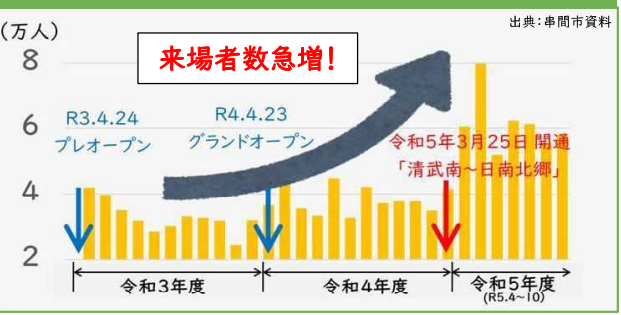
「清武南～日南北郷」間開通により、宮崎市役所から日南市役所間が約24分短縮！



「港の駅めいづ」月平均レジ通過人数



「道の駅くしま」来場者数



観光周遊モデルルートの提案

【観光関係者】
「清武南～日南北郷」間が開通したことにより、大分県から県南地域までの移動時間が短くなり、九州の小京都である「飫肥」や絶景がある日南海岸沿いの「鶴戸神宮」や「青島」などの県南地域の観光地を訪れる新たな観光周遊ルートの作成を旅行会社に提案しています。

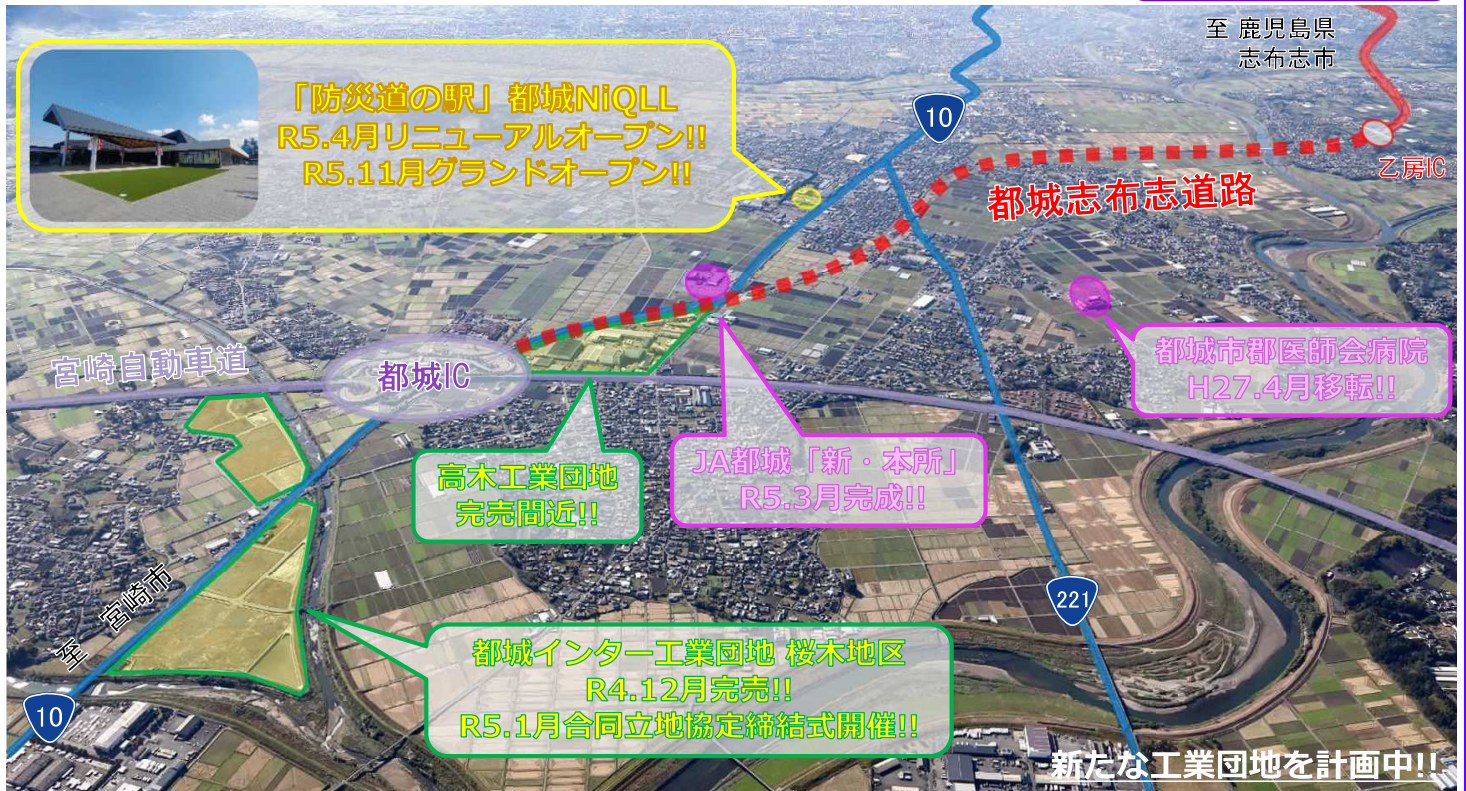


輸送効率化により 民間投資を誘発！



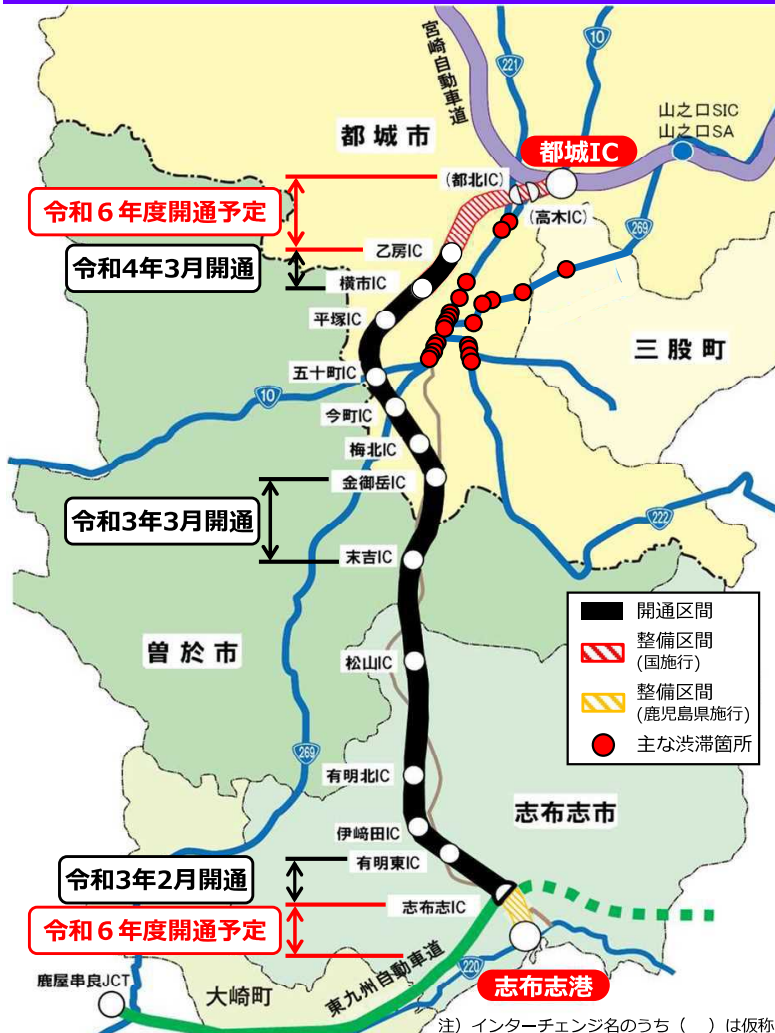
都城IC周辺地域の経済活動が活性化！

都城志布志道路

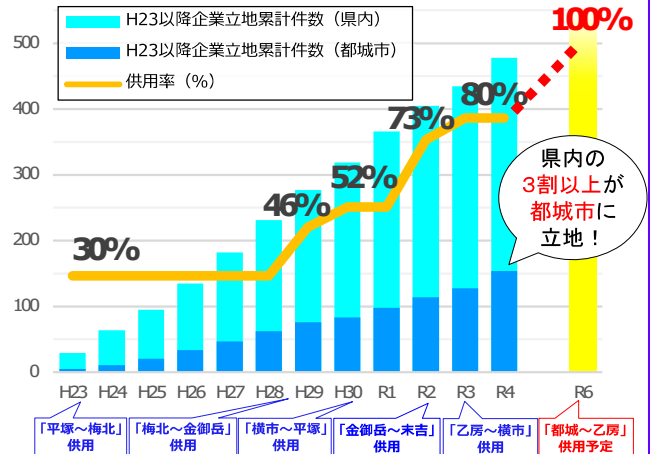


令和6年度 全線開通へ！ 物流拠点へのアクセス性向上に寄与！

全線開通を見据え、 企業立地件数が年々増加！



企業立地件数・供用率 (全体延長約44km)



輸送時間が短縮され、安定的な輸送が可能！

災害に強い道路整備により 中山間地域が活性化！



災害時における安定的な輸送機能を確保！

国道219号

九州東進作戦における緊急輸送ルート



広域移動ルート
 ・部隊等の広域的な移動のためのルートで、主に高速道路又は直轄国道により構成。

サブルート
 ・広域移動ルートにおいて、機能が確保できない場合における部隊等の移動のためのルート。

出典：九州道路啓開計画(H28.3)



至 西都市

至 西米良村

▲ 災害発生状況(R4.7.31)

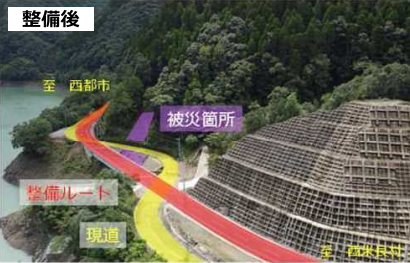
「被災する道路」から「救援する道路」へ！



整備前

平成30年8月台風豪雨による被災

▼国道219号 越野尾工区



整備後

至 西都市

被災箇所

整備ルート

現道



▼国道219号 岩下工区

整備前



整備後

地域産業（林業）の振興を支援！

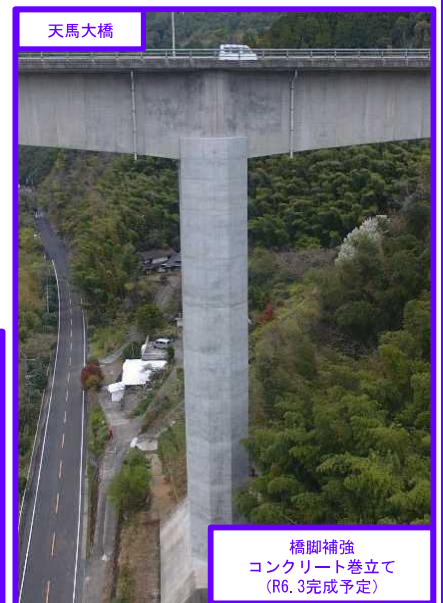
人吉西米良宮崎道路（国道219号）



橋梁の耐震性能強化で 大規模地震発生時における人流・物流の確保！



九州東進作戦の要となる国道218号(優先啓開ルート)の橋梁の耐震補強を推進



南海トラフ大地震発生時においても通行可能な状態を維持することで、人流・物流を確保し、熊本、福岡方面からの支援を受けることが可能となる。

「流域治水」の取組による治水安全度の向上！



宮崎県では、**県内58水系全てで流域治水プロジェクト**を作成し、流域に係わるあらゆる関係者と連携し、**流域治水の加速化・深化**に取り組んでいます。

宮崎県内における流域治水の枠組 【県内水系数：58水系】



河道掘削の取組

令和4年度までに141河川でV=310万m³の河道掘削を実施



平成28年の台風で被害の発生した五十鈴川では、対策実施により、平成28年と同規模の洪水となった令和4年台風第14号における被害を軽減。

	家屋浸水件数		住家計
	住家	住家計	
平成28年台風第16号	床上 18 床下 20	38	
令和4年台風第14号 (令和4年9月末時点)	床上 2 床下 17	19	

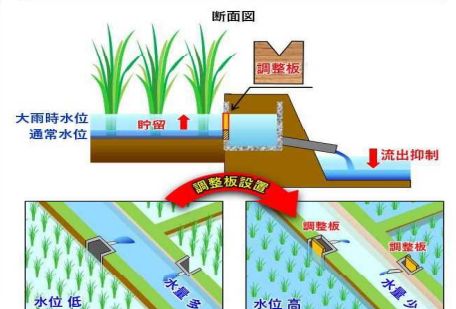
都市公園の取組

公園における流出抑制対策事例 (小松川流域：宮崎県総合文化公園)



農政部局の取組

- 排水口に小さな断面の切り欠きをあけた調整板を設置し、大雨時に水の流出を抑制することで、田んぼに一時的に貯留する。
- 多くの田んぼで取り組むことで、水路や河川の水位上昇を緩和し、下流域の洪水被害を軽減する効果がある。
- 令和5年度より田んぼダム普及促進事業として事業化



ダムの事前放流の取組

令和4年台風第14号における事前放流の実施状況

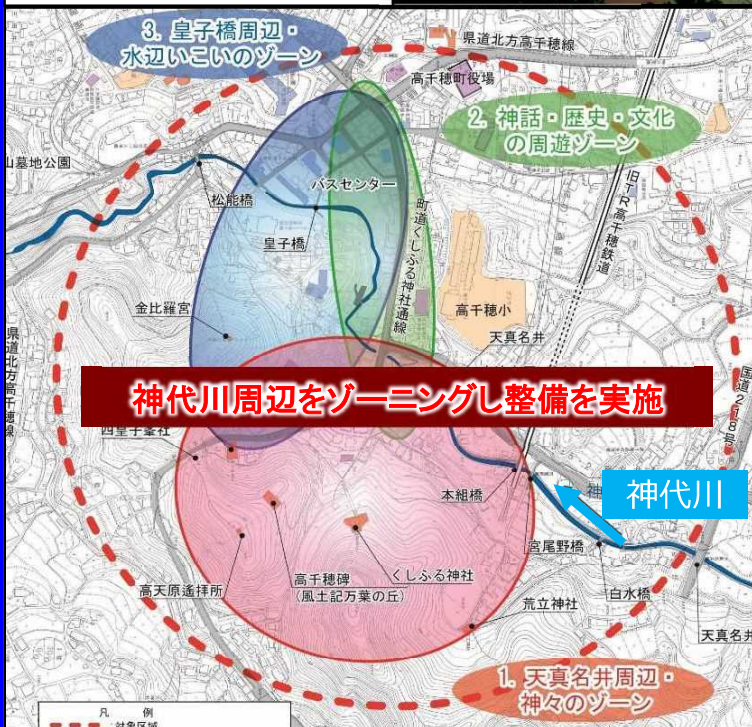
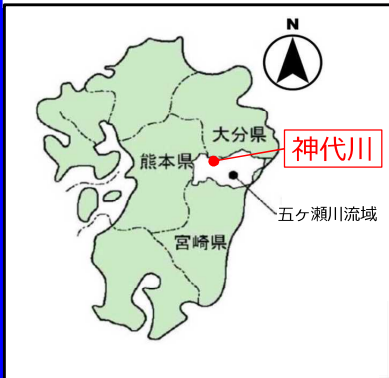
立花ダム	ダム数	実施数
県内ダム数	46	30
うち、県管理	13	7※
県企業局	3	2
九州電力	19	15
土地改良区など	11	6



※数値能力のある、事前に水位を低下させることのできるダムで、事前放流を実施

※ダム名(綾北、綾南、岩瀬、渡川、松尾、祝子、立花)

まちづくりと一体となった環境に配慮した河川整備を平成26年度から令和4年度にかけて実施。うるおいのもどった神代川が位置する高千穂町の観光客消費額などが増加し、「かわまちづくり」の効果が発現！

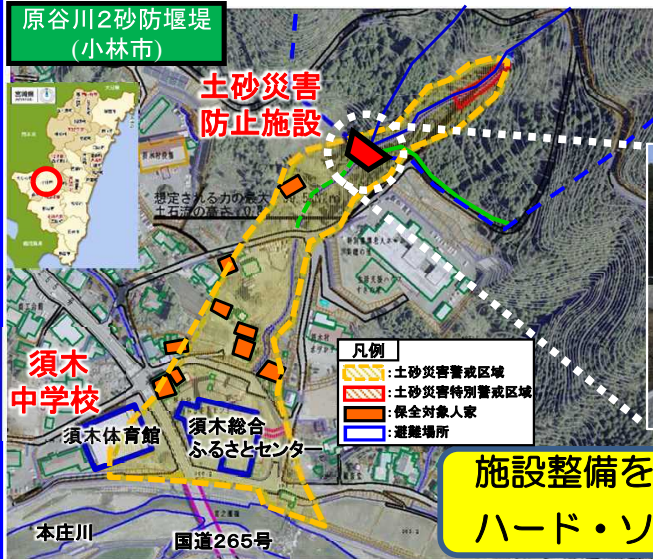


「いのち」と「暮らし」を守る
ハード・ソフト一体となった土砂災害防止対策により

地域防災力が向上!



土砂災害から命を守るインフラの強化



施設見学会を実施し、地元中学生に対して土砂災害警戒区域や砂防堰堤の役割を説明



令和2年度完成



施設見学会(須木中学校) 小林市(R5.7月)

施設整備をきっかけに、地域住民の防災意識が高まり、ハード・ソフト両面からの**地域防災力が着実に向上**

計画的な施設整備により土石流・流木を捕捉し、下流の被害を防止
次の土砂災害に備えるため、土砂・流木除去を実施し施設効果を確保

施設完成時

竹之元川砂防堰堤

R4.6.23

【災害関連緊急砂防事業】令和3年完成
竹之元川砂防堰堤(西米良村)
堤高H=6.0m 堤頂長L=35.0m

令和4年9月(台風第14号)

R4.9.30

【台風第14号状況】(西米良(気)雨量観測所)
連続雨量672mm、時間最大雨量47mm
土石流捕捉量:約5,000m³(推定)

土砂・流木除去を実施

R5.10.30

土砂・流木を除去

ずり口谷川砂防堰堤

R4.6.29

【通常砂防事業】平成21年完成
ずり口谷川砂防堰堤(椎葉村)
堤高H=7.5m 堤頂長L=39.5m

令和4年9月(台風第14号)

R4.9.26

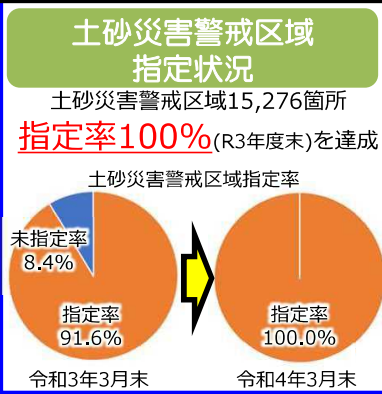
【台風第14号状況】(岩屋戸雨量観測所)
連続雨量713mm、時間最大雨量42mm
土石流捕捉量:約3,500m³(推定)

土砂・流木除去を実施

R5.9.7

土砂・流木を除去

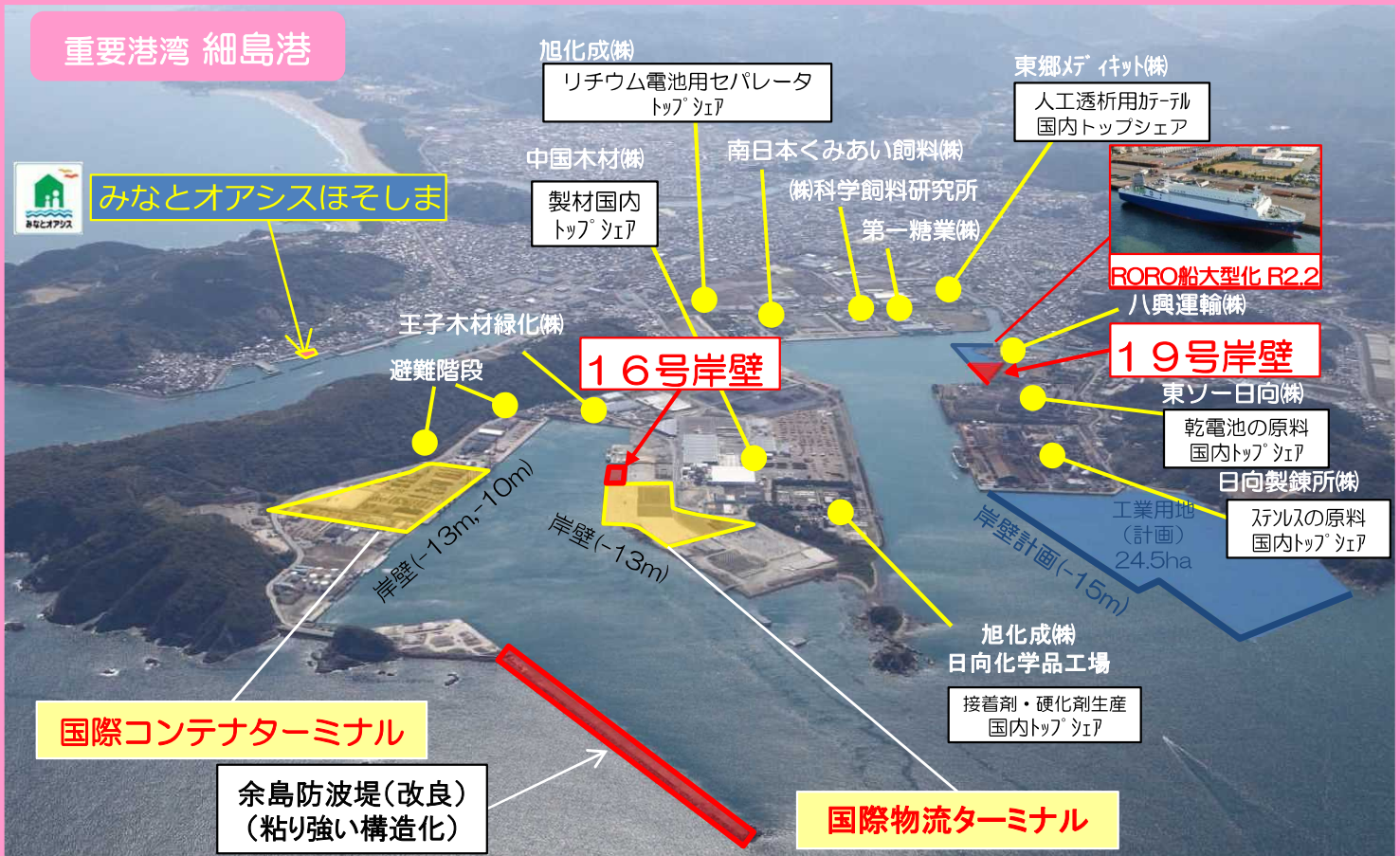
地域の防災力を高める警戒避難体制の強化



港の整備による 基幹産業の生産性向上と競争力強化！



重要港湾 細島港



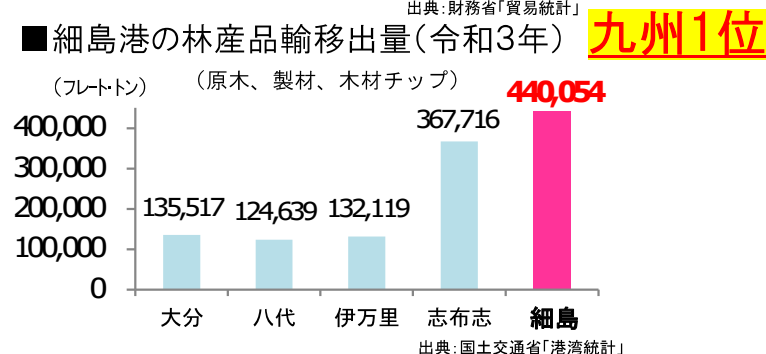
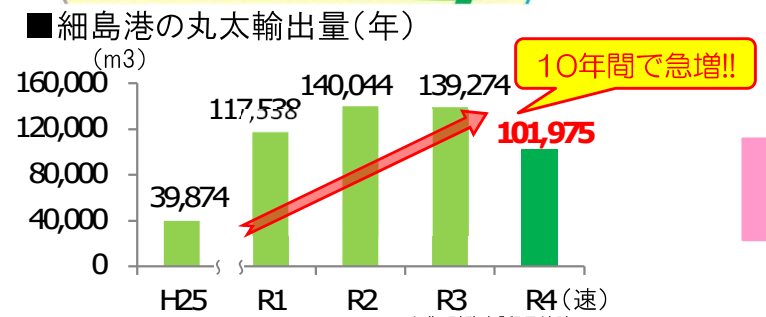
16号岸壁 整備により木材取扱量の増加に対応！

製材消費量増加と原木輸出量増加で林業再生に期待！



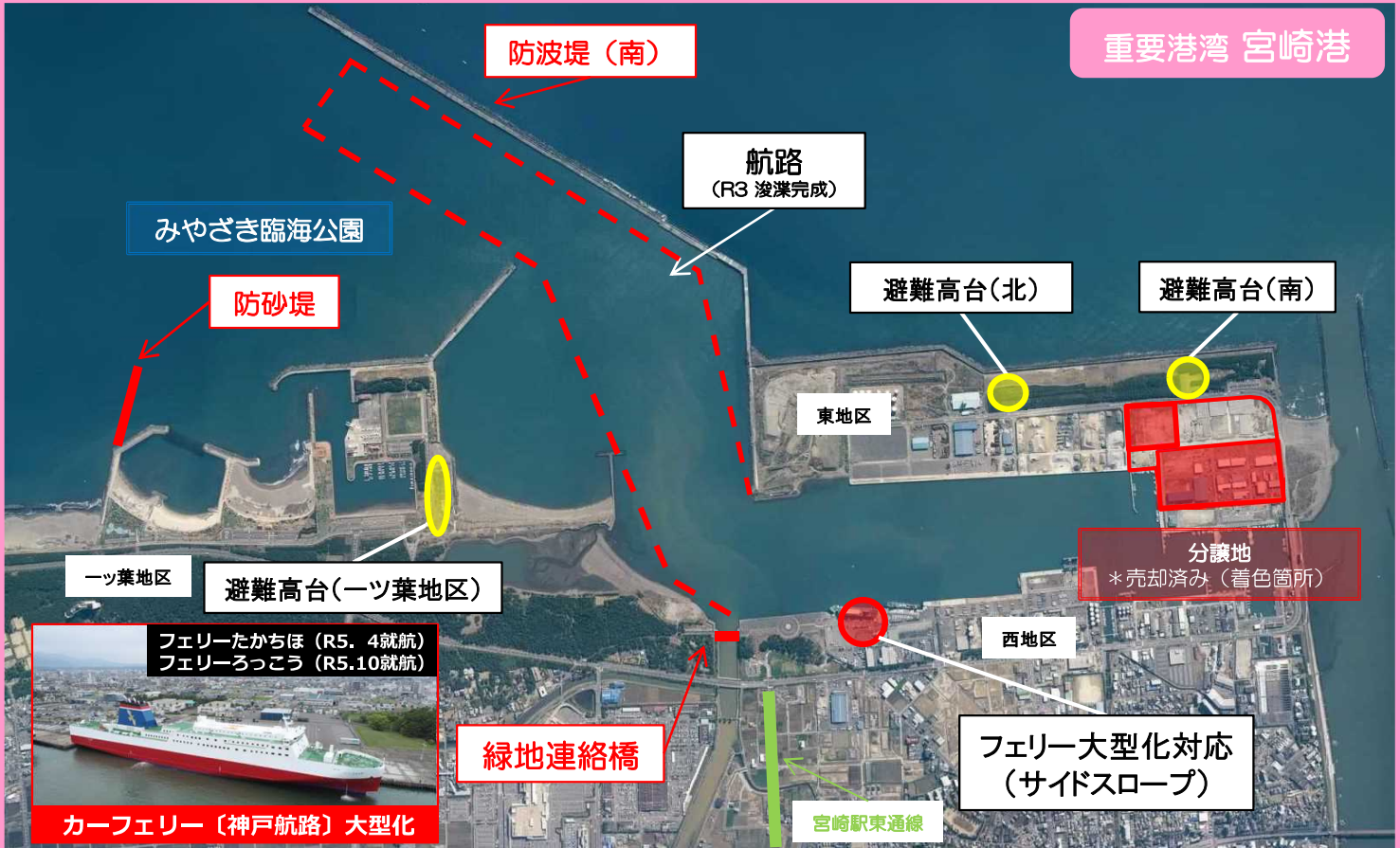
原木を取扱う岸壁が整備され、
林産品輸移出量のさらなる増加に期待！

19号岸壁 新規事業採択
RORO船の大型化に対応！



※完成イメージ図
RORO岸壁と背後ふ頭用地を整備

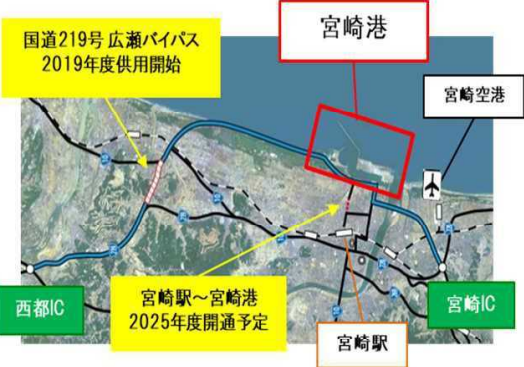
陸路と海路の整備による 物流機能の拡大・強化！



重要港湾 宮崎港

カーフェリー大型化との連携と道路整備による相乗効果！

■ 港背後の道路整備



■ サイドスロープ整備



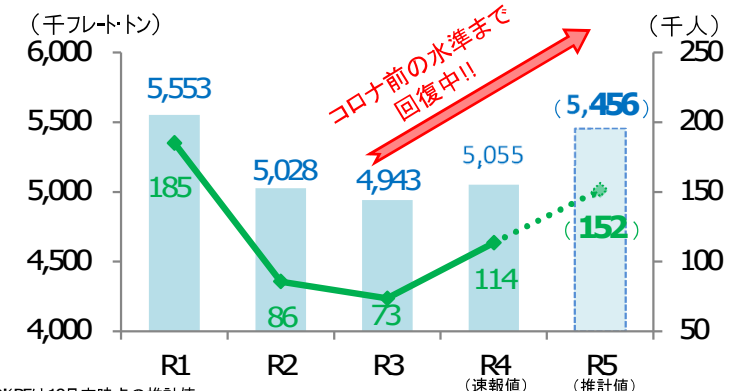
■ フェリーたかちほ披露式典(R4.4.13)



カーフェリーの大型化により
 ◎トラック積載台数の増加で、**ドライバーの負担軽減**
 ◎都市圏に向け、**安価で大量輸送が可能**
 ◎**個室増加(29室から220室に)**で、多様な旅客ニーズに対応

陸路と海路の整備により 貨物やフェリー乗降客数の増加に期待！

■ カーフェリーの貨物量と乗降人員数



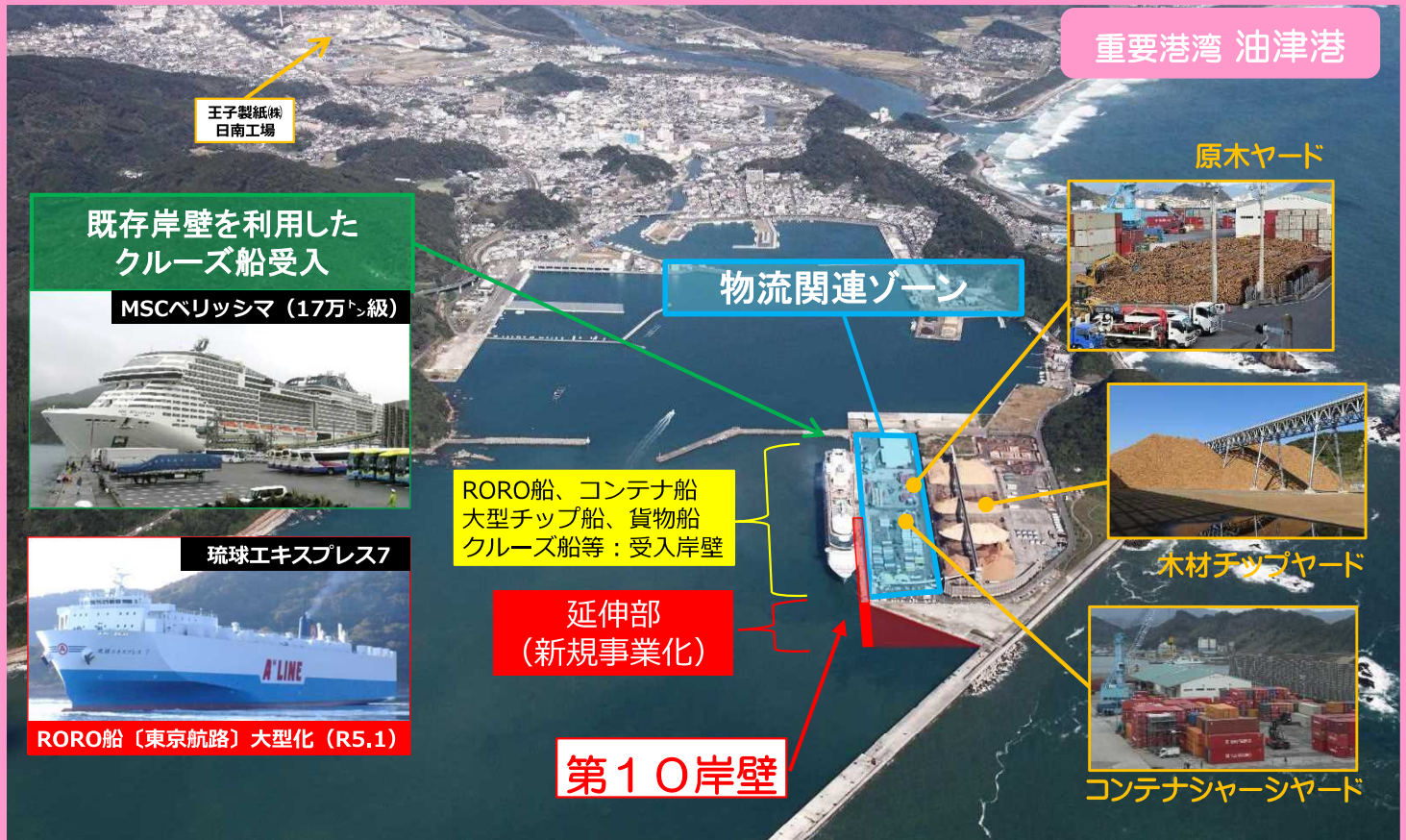
※R5は10月末時点の推計値(11,12月はR4と同等と見込む)
 出典:「港湾統計」 新型コロナウイルス感染症の影響により減少 新船就航

緑地連絡橋の整備により 賑わい創出の強化！



西地区と一ツ葉地区(阿波岐原森林公園)の連携が強化され、さらなる賑わいの創出！

港の整備による 県南地域の産業活性化と 災害発生時における受入体制の確保！

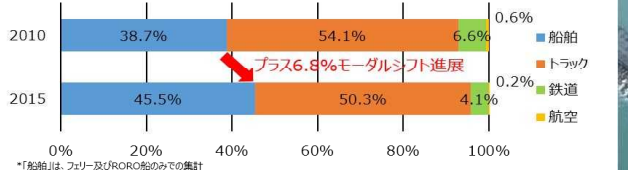


第10岸壁 延伸により船舶の大型化に対応！

■ 事業化を喜ぶ地元



■ モーダルシフトの進展



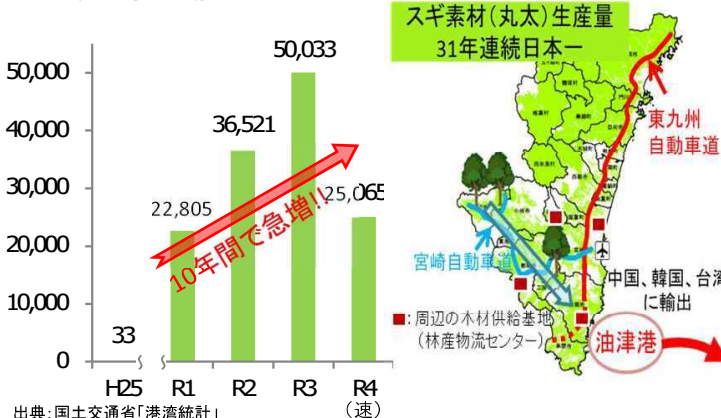
【宮崎県と関西以東の貨物流動（輸送モード別資料：第9・10回物流センサス）】

第10岸壁 延伸 により「大型化に伴う離隔不足」 が解消され、安全な係留が可能に！



原木の輸出増加に対応するため 既存施設を活用！

■ 油津港原木輸出量



耐震強化岸壁により 災害発生時の受入体制を確保！



M8.9の大震災発生時、日南市・串間市の約7万人へ緊急物資の輸送が可能に！

日本のひなた宮崎国スポ・障スポ2027開催に向けた 公園整備で防災力向上を推進！



サンマリスタジアム宮崎
 ・読売巨人軍 ・フェニックスリーグ
 ・**WBC侍ジャパン強化合宿 (R5.2.17~2.27)**

ラグビー場 (国スポ会場)
 ・徳島ヴォルティス(J2) ・F C岐阜(J2)
 ・パナソニックワイルドナイツ (ラグビー)
 ・浦安D-Rocks (ラグビー)

**宮崎県
総合運動公園**

陸上競技場 (国スポ会場)
 ・東京五輪事前合宿
 ・ドイツ陸連、スピードスケート日本代表
 ・鹿島アントラーズ(J1)、ベガルタ仙台(J1)

**自転車競技場
(国スポ会場)**

ソラシドエア
サーフィンセンター木崎浜

木の花ドーム
 ・読売巨人軍

第3競技場 (サッカー場)
 ・大宮アルディージャ(J2)
 ・フジアンノ岡山(J2)

ひむかスタジアム
 ・読売巨人軍 ・フェニックスリーグ

テニスコート (国スポ会場)
全24面ハードコート化

①~⑥:避難デッキ

① 「スポーツランドみやざき」の中核施設である宮崎県総合運動公園に津波避難施設が完成！



南海トラフ巨大地震等による津波から、公園全体で約6万1千人の避難が可能に！
 防災力向上とともに、安全・安心な総合運動公園として、今後、合宿等のスポーツ誘客の更なる増加にも寄与することが期待される！
 防災訓練を実施し広報を行うことで、県民の防災意識の向上に向けた啓発にも活用されている！

② 県内市町の都市公園において、防災公園の整備を推進！



日本のひなた宮崎国スポ・障スポ2027の競技施設となる公園整備と併せて、沿岸地域の後方支援拠点等としての機能を持つ、防災公園の整備を推進中！
 (県内3市(都城市、延岡市、小林市)において、防災公園事業化済み)

地域住民との協働による 歴史を活かしたまちづくり



西都市 記紀の道（逢初川歩行者専用道路） 妻北地区都市再生整備計画事業(H18～R2)



記紀の道：西都原古墳群と中心市街地を結び、古事記、日本書紀にまつわる神話伝承地を巡る道

点在していた神話伝承地を歩行者専用道路でつなぎ、既存の川や田んぼ、巨木と一体となった風景を創出したことで、まるで大きな公園を歩いているような道路となった。

整備後

「記紀の道」の整備は、計画策定段階から住民に参加いただき、地域に対する愛着や誇りを醸成しながら進められた。

こうした取組により、「記紀の道」沿線では、地域住民が主体となって、良好な景観の保全や創出、普及啓発・人材育成活動が継続的に行われている。

古代米（田植え）

古代米（稲刈り）

小学校の授業（さいと学）

さいと古墳まつり

花壇の管理

古代ハスの栽培

活動参加者数

年度	参加者数 (人)
令和2年度	151
令和3年度	578
令和4年度	701

地域づくり活動の参加者数が約4.6倍

令和5年度 手づくり郷土賞（国土交通大臣表彰） 大賞部門受賞！

- ・ 地域活動団体
妻北地域づくり協議会/映画「みちのみちのり」制作委員会
- ・ 社会資本管理団体
西都市

○手づくり郷土賞とは
地域の個性・魅力を創出し、良質な社会資本及びそれと関わりをもつ優れた地域活動を広く募集・発掘し、これらを全国に広く紹介することにより、個性あふれ活力ある郷土づくりに資することを目的として、昭和61年度に創設された国土交通大臣表彰制度

・活動内容

妻北地域づくり協議会は「記紀の道」において、住民参加型で地域資源の再認識や郷土愛を育む活動、住民同士の繋がりや来訪者との交流を深める活動に取り組んでいる。
映画「みちのみちのり」は、このような地域への愛を未来に伝えようとクラウドファンディングで調達した資金をもとに制作した地域活動のドキュメンタリー映画である。
これらの取り組みにより、小学生が郷土について学ぶ「さいと学」の授業で「記紀の道」が取り上げられる機会が増え、子供達のアイデアで「記紀の道」をランタンで飾る取組や新規のボランティア活動が生まれるなど、歴史を活かしたまちづくりが広がりをみせている。



映画は、西都市の上映を皮切りに、宮崎市、鹿児島市と上映を重ね、令和5年6月には東京にて3週間上映



宮崎県におけるインフラのストック効果事例集 (vol.10)

令和6年1月発行

宮崎県県土整備部